

8月31日(月)～9月28日(月) 満月セレクト

－ 今回のセクター ご紹介 －

Music Selector : ピーター・バラカン

今回は久しぶりに自分で選曲を担当しますが、テーマがあります。10月24-25日、ぼくが監修する音楽フェスティバル、「Peter Barakan's Live Magic」の第2回が開催されますので、その一部の出演者たちをご紹介します。場所は恵比寿ガーデン・プレイスのガーデン・ホールとガーデン・ルームです。この「Live Magic」が他のフェスティバルと違うところといえば、屋内で主に大人向けであること、ヘッドライナーの代りにフェスティバル全体の存在を打ち出していること、他では聞けない優れたミュージシャンたちを多く紹介していることだと思えます。(詳細は<http://livemagic.jp/>でどうぞ!)



今回のセレクトCD

1.



Geoffrey Gurrumul Yunupingu / Gurrumul (Sony / SICP4315)

オーストラリアの先住民アボリジニのシンガー・ソングライター。生まれた時から目が見えない彼は英語がほとんどできず、極めて内気だそうですが、声を聞くと魂を洗い流してもらったような気がするほどきれいな響きを持っています。メロディはポリネシアに近い雰囲気があり、何となくハワイを思わせるものもあります。

2.



Sara Watkins / Sun Midnight Sun (Nonesuch / 530684-2)

セーラ・ウォッキンズはロス・アンジェレスで生まれ、まだ小学生のうちから人前でフィドルで演奏していましたが、ニケル・クリークというポップ・カントリーのトリオのメンバーとして知られるようになってからもう15年経ちました。最近ソロの活動を続けながら、このフェスティバルに来日する「I'm With Her」にも参加しています。

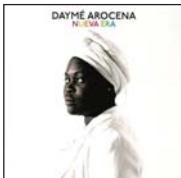
3.



Sarah Jarosz / Build Me Up From Bones (Sugar Hill / 1106068)

テキサス州出身のセーラ・ジャローズは早熟のマンドリン/バンジョー奏者で、ブルーグラスを出発点としながらも独自の雰囲気を持ったシンガー・ソングライターとして活動しています。まだ24歳の彼女は音楽大学も卒業し、2013年のこの3作目のアルバムは大きく注目されました。こちらのセーラも「I'm With Her」のメンバーです。

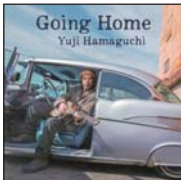
4.



Dayme Arocena / Nueva Era (Brownswood / BRC476)

キューバ人のダイメ・アロセナは23歳でデビュー・アルバムを発表したばかりですが、キューバ国内では10代からずっと歌っていました。クラシックも学び、ジャズが好きで、アフロ・キューバンのスタイルも抜群にうまく、色々な引き合いがあった中、数年前から彼女を大注目していたイギリスのDJジャイルズ・ピーターソンのレーベルと契約しました。

5.



Yuji Hamaguchi / Going Home (Columbia / COCB54179)

2014年に何と58歳で正式な「デビュー」を果たした濱口祐自は和歌山県的那智勝浦ですっとギターを弾き続けてきた人で、アコースティック・ギターでブルーズやフォークからエリック・サティの「ジムノペディ」まで、ディープな和歌山弁から想像できないほど繊細に聞かせます。演奏も素晴らしいですが、曲間のおしゃべりにもとても人気があります。